

λ(ラムダ)プロジェクト ～津軽海峡交流圏の形成に向けて～

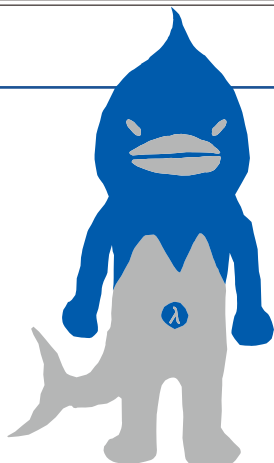
平成27年度末の北海道新幹線開業で、青森県と北海道道南地域の時間距離が大きく短縮され、観光・ビジネスを始め、医療、教育などさまざまな分野において、交流の活発化が見込まれます。こうした将来の姿を見据え、青森県では「λプロジェクト」に取り組んでいます。



「λプロジェクト」は、青森県全域と道南地域とを一つの圏域とする「津軽海峡交流圏」の形成に向けて、圏域内の交流の活発化を図るとともに、圏域外からの交流人口の拡大と訪問者の滞在時間の質的・量的拡大を目指す取組です。

プロジェクト名は、新函館北斗駅から新青森駅を通して八戸駅への新幹線のルートと、新青森駅から弘前駅への奥羽本線のルートの形が、ギリシャ文字のλ(ラムダ)に見立てることができることに由来します。

【問い合わせ先】交通政策課 ☎017-734-9152



λ(ラムダ)プロジェクトシンボルキャラクター『マギユロウ』

3つの新駅が誕生!!



本州最北端の新幹線駅 奥津軽いまべつ駅(今別町)
龍飛崎や十三湖、五所川原方面など、津軽半島周遊の新たな拠点として、また、北海道からの玄関口としての役割を担います。現在の海峡線「津軽今別駅」の場所に設置されます。



- 奥津軽いまべつ駅周辺施設
- ①屋内無料駐車場48台(待合室及びトイレ完備)
 - ②屋外無料駐車場34台
 - ③駅前広場(バスバース及びタクシーバース)
 - ④道の駅アスル(平成27年度リニューアルオープン)



新函館北斗駅(北斗市) 木古内駅(木古内町)
提供:鉄道・運輸機構

今こそ、勝負のとき！ 人が“連結”し、回遊型観光を

北海道新幹線開業に伴って、今別町に「奥津軽いまべつ駅」が新設されるのは、津軽半島にとって大きなチャンスです。

津軽鉄道では、これまでも沿線にある斜陽館や十三湖など、地域の観光資源を「津軽半島観光アテンド」が電車に乗ってお客さまに津軽弁でご案内してきました。地元の人たちにとってあたりまえの景色や食もの、旅行者にとっては非日常。地元のあるがままの暮らしにふれたり、アテンドとの素朴な交流がとても好評です。

津軽五所川原駅の隣には、コミュニティカフェ「そーれ」があり、地元と観光客の交流の場になっています。さらに、津軽中里駅構内では、「津軽伝統金多豆蔵人形劇」の上演や、地域おこしグループによる直売所など、駅から元気を発信する活動を行っています。観光客は、そうした地元の人のふれあいを求めており、駅はコミュニケーションの場にもなっています。

地元のひとと観光客のご縁をつなぐことが私たちの役目

津軽鉄道は、80年以上、津軽半島を走り続け、県内外の人と連携を取りながらこの地で生き続けてきました。ですから、私たち交通事業者の役割は、北海道新幹線で青森を訪れた人に沿線を巡ってもらうのももちろんですが、駅を舞台に地元のひととの交流の機会を増やし青森を好きになってもらう、さらにそこから弘前や八戸、下北方面にも回遊してもらえよう、人をつないでいくこと。車両が“連結”するように、津軽海峡をまたいで人がどんどんつながって連携しながら、観光客を呼び込んでいく必要があると思っています。

北海道新幹線が新函館北斗から札幌まで延伸する前の今こそ、青森県の勝負どき！さらに絆を深めながら、みんなで青森県を盛り上げていきましょう！



【インタビュー】
津軽鉄道株式会社 代表取締役社長
澤田 長二郎さん
ホームページアドレス
<http://tsutetsu.com/>

以

前は、東京で
栄養士として
働いていましたが、
20年前に故郷の風間浦村に
ターンし、母と一緒に下風呂温泉郷で「まるほん旅館」を経営しています。帰郷当時は、温泉街にも活気がありましたが、時代の変化とともに少しずつ街に元気がなくなってきたんです。

ちょうどその頃、「女将たちが連携して、みんなで温泉街を元気にしよう」と、「下風呂温泉女将の会」が結成されました。温泉街の3カ所の施設を選び、泉質の違いを楽しみながら入浴できる「遊めぐり」は女将の会が企画したもので、からんころんと下駄ばきで温泉街を散策しながら、夏は漁火を眺めたり、みなとの風情を楽しんでいたただいています。また、毎年冬には、各旅館で鮮度抜群の風間浦鯊鰯をフルコースで提供しており、大変人気です。

個々の取組が集結し
夢と希望が、さらに具体化

帰郷後、隣の大間町で「まち

人がつながれば、地域が動く
下北の食満載の「下北御膳」も夢



【インタビュー】
「下風呂温泉女将の会」会長
長谷 雅恵さん
ホームページアドレス
<http://www2.ocn.ne.jp/~maruhon/>

「下風呂温泉女将の会」という会が立ち上がりましたが、私もメンバーに加わりました。海を越えて新幹線がつながるからには、まず人がつながっていくには、まず北海道函館市や松前町の若女将とも交流が生まれたので、今後は津軽海峡交流圏全体で地域を盛り上げ、一人でも多くの観光客に周遊してもらいたいですね。下北は、新鮮な魚介類、肉、果物、なたね油、長いも焼酎、下北ワインなど、バリエーション豊かな食が自慢。さまざまな方々と連携を深め、下北の食材にこだわった「下北御膳」を開発し、北海道新幹線で訪れたお客さまをおもてなすことができたら、と夢を描いています。